

令和7年度

研究紀要

秋田県立西目高等学校

理科（生物基礎）学習指導案

日時：令和7年10月15日（水）6校時

場所：生物化学室

対象：2年文理系列（20名）

教科書：高等学校生物基礎（第一学習社）

1 単元名 1章 第2節 代謝と酵素

2 単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し知識を身に付けている。 授業で取り扱う科学的事象を自らの生活経験に結びつけ、予想、考察できる。	自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見出し、科学的に探究する過程を通して事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。 実験等を通し操作技術や注意点を理解し、視覚的に見る科学現象をデータにまとめられる能力が身に付いている。	自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術が私たちの生活が発展するための基盤となる生物に対する興味・関心を高めている。

3 単元と生徒

(1) 単元観

身近にある食材である肝臓を用い、タンパク質（酵素）について考えを深める。自らの身体も持つ性質であることに気付かせたい。

(2) 生徒観

多くの生徒が進学を目指しているクラスである。授業態度や反応が良く、新しい分野でも積極的に学ぼうとする姿勢がある。

(3) 指導観

実験を行う機会は少ないが、だからこそ興味関心が高い。結果が分かっている実験だが、理論を理解し、教科書の内容と実学を結びつけさせたい。

4 単元の指導計画

指導計画（総時数 5 時間）

① 生物とエネルギー （2時間）

② 代謝とATP （1時間）

③ 代謝と酵素 （2時間）

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	<p>顕微鏡実験に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>教科書等と見比べながら、プリントを完成させている。</p> <p>顕微鏡を適切に使用し、観察することが出来る。</p> <p>生命活動をエネルギーの観点から見る事ができる。</p> <p>酵素を用いた実験・観察ができる。</p> <p>代謝におけるATPと酵素の役割を説明できる。</p> <p>呼吸と光合成の過程の概要について理解している。</p>	<p>生物体は細胞からなることが分かる。</p> <p>核を除去するとどのような現象が起きるか説明できる。</p> <p>真核生物と原核生物、及び植物細胞と動物細胞の構造の違いを説明できる。</p> <p>核、ミトコンドリア、葉緑体についてはたらきがわかる。</p> <p>酵素の特徴と無機触媒との違いを説明できる。</p> <p>基質特異性とは何か説明できる。</p>	<p>多様な生物が持つ共通性について考察しようとする。</p> <p>共通性が共通の祖先に由来することを理解しようとする。</p> <p>物質の代謝に生命活動のエネルギーの出入りがともなうことを理解しようとする。</p> <p>ミトコンドリアと葉緑体の起源について考察しようとする。</p>

6 本時の学習（本時2 / 2）

(1) 目標 酵素（カタラーゼ）のはたらきを視覚的に理解し、文章化、言語化ができるようになる。

(2) 展開

	生徒の学習活動	教師の指導・留意点等
導入 10分	<p>タンパク質の性質について復習し、発表する。</p> <p>目標「酵素の働きを理解し、自身の考えを表現できるようになる」</p>	<p>酵素について最適温度、最適pH、基質特異性について復習する。</p>
展開 30分	<p>説明及びプリントを元に、実験操作を行う。</p> <p>実験内容をプリントにまとめ、結果を考察する。</p>	<p>実験操作を説明する。</p> <p>手順や実験キットを間違いなく用意できているか確認、指導する。</p> <p>過酸化水素、マッチを用いるため、取り扱いに留意する。</p> <p>机間指導を行い、話し合いが進んでいるか確認しながら、不明な点があればヒントをだす。</p> <p>蒸留水で操作を行い、反応の違いを考えさせる。</p>
整理 10分	<p>タンパク質の性質を実験結果と合わせ振り返り、発表を通して表現し、お互いに共有する。</p> <p>後片付けを行う。</p> <p>プリントをまとめ提出する。</p>	<p>酵素（タンパク質）の性質から今回の実験結果を説明させる。</p> <p>後片付けを指導する。</p> <p>振り返りにより学びが深まるとともに、次単元の学習活動へと繋げられるよう指導する。</p>

[評価]

手順、注意点を理解して操作を行おうとしているか。

実験結果を振り返り、タンパク質の性質を文章化、言語化し、事象を伝えることができるか。

【思考・判断・表現】

酵 素 実 験

【目的】 酵素の働きを理解し、自身の考えを表現できるようになる。

【準備】 肝臓片（生、焼）、蒸留水、過酸化水素水、線香、マッチ、試験管、試験管立て、ピンセット、ガラス棒



【方法】 ① 実験キットを各テーブルに持っていく。

② 試験管に過酸化水素水を約 3 mL 入れる。

③ 各班のテーブルで線香に火をつけ、それぞれの試験管に肝臓片を入れた後、試験管内に線香を入れ、反応を観察し記入する。

注 1：肝臓片が落ちていかない場合はガラス棒で押す。

注 2：線香を近づけすぎると火が消えてしまうので注意する。

【結果】（反応があった場合は＋、無い場合は－を記入）

試験管	反応
過酸化水素水 + 焼肝臓片	
過酸化水素水 + 生肝臓片	
蒸留水 + 生肝臓片	

【考察】

- カタラーゼと過酸化水素水の反応を化学反応式で記せ。
- 蒸留水がこのような結果になったのはなぜか。
- 焼肝臓片がこのような結果になったのはなぜか。

【振り返り】 ※ 内容は楽しかった、すごかった等だけにならないように今までの授業内容も踏まえながら記入しましょう。

年 組 番 氏名

工業科（土木施工）学習指導案

日 時：令和7年10月15日（水）6校時

場 所：S1教室

対 象：2年土木系列（13名）

教科書：「土木施工」（実教出版）

1 単元名 第5章 舗装工 第2節 コンクリート舗装

2 単元の目標

日常生活で毎日歩行や自転車、自家用車で走行する道路の舗装部分であるコンクリート舗装がどのような理由から使われているか理解し、用途によって使い分けできる力を身につける。

3 単元と生徒

- (1) 単元観 一般的に道路といわれているが、土木の専門分野では舗装といわれている。アスファルト舗装とコンクリート舗装の違いを理解することができる。
- (2) 生徒観 13名の学力差が大きいことにも留意する。
- (3) 指導観 なぜコンクリート舗装が使われているのかを自らの考えをもとに意見を明確に述べるすることができる。

4 単元の指導計画

第5章 舗装工（時間）	10時間
第1節 アスファルト舗装	3時間
1 アスファルト舗装の構造	1時間
2 アスファルト舗装の構造設計	1時間
3 舗装の施工	1時間
4 その他のアスファルト舗装	1時間
第2節 コンクリート舗装	1時間（本時）
1 路床 2 路盤 3 コンクリート版	
第3節 舗装の維持・修繕	2時

5 単元の評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・アスファルト舗装が大部分だが、コンクリートの特性からその必要性を理解するとともに、関連する技術を身につけている。	・コンクリート舗装の目地に着目して、課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。	・アスファルト・コンクリート舗装の必要性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

6 本時の計画

(1) 目標

コンクリート舗装がどのような理由から使われているかを理解することができる。

(2) 展開

【①知識・技術 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度】

	生徒の学習活動	教師の指導・留意点等
導入 (15分)	<p>道路が人とモノを大量に輸送する手段であったことを理解する。</p> <p>○なぜ舗装が必要なのかを考え発表する。</p> <p>○本時の目標を確認する。</p>	<p>○交通網を時系列で示し時代との関係性を人々の生活模様を観察することによって理解できるようにする。</p> <p>○輸送機関の陸上部と海上部との比較から舗装の必要性を理解させる。</p>
展開 (32分)	<p>アスファルト舗装には必要の無い目地がなぜコンクリート舗装では必要なのかを考え理解する。</p> <p>○コンクリート舗装断面の構造をプリントを記入することで理解する。</p> <p>○ひび割れの発生を防ぐ方法を考える。</p> <p>○アスファルト舗装は膨脹と収縮がなぜ起こらないのかを考える。</p> <p>○交通荷重の支持方法の違いをプリントを活用し説明する。</p> <p>施工管理の試験問題を解き収縮の大きさが影響することを理解する。</p> <p>○目地の方向を確認し理解する。</p> <p>アスファルト・コンクリート舗装の比較表を記入することで特徴や違いを理解する。</p> <p>○舗装の特徴や違いを発表する。</p>	<p>○目地が必要であることを理解できるようにする。</p> <p>○膨脹と収縮の違いに注意する。</p> <p>[評価]【思考・判断・表現】</p> <p>○アスファルト・コンクリート舗装の支持方法の違いから目地の必要性を科学的な根拠から考えようとしているか。</p> <p>○収縮が大きい方と小さい方どちらを使用するのかを考えさせる。</p> <p>[評価]【知識・技術】</p> <p>○空港の滑走路の強度の違いのように載荷重による違いから施工材料に関する技術を身につけようとしているか。</p>
まとめ (3分)	<p>○本時の学習内容を確認する。</p>	<p>○振り返りにより舗装の違いが、日常生活に必要なであることを言葉にすることで定着を図り、次時の学習に向かう意欲を喚起する。</p>

※箱囲みは授業のポイントとなる活動

目標：P151 「

温度変化によって
(①)) したり
(②)) したりする。

切れ目のことを

③

という。

コンクリート舗装は、路盤上に施工したコンクリート版を表層とする舗装をいい、一般に(④)と(⑤)から構成される。

舗装

路面

コンクリート版(表層)

アスファルト中間層(4cm)

10cm~

路盤(⑥))cm
以上とする

上層路盤(碎石)

下層路盤(砂利)

10cm以上
場合は
けて施工

目地がないと、

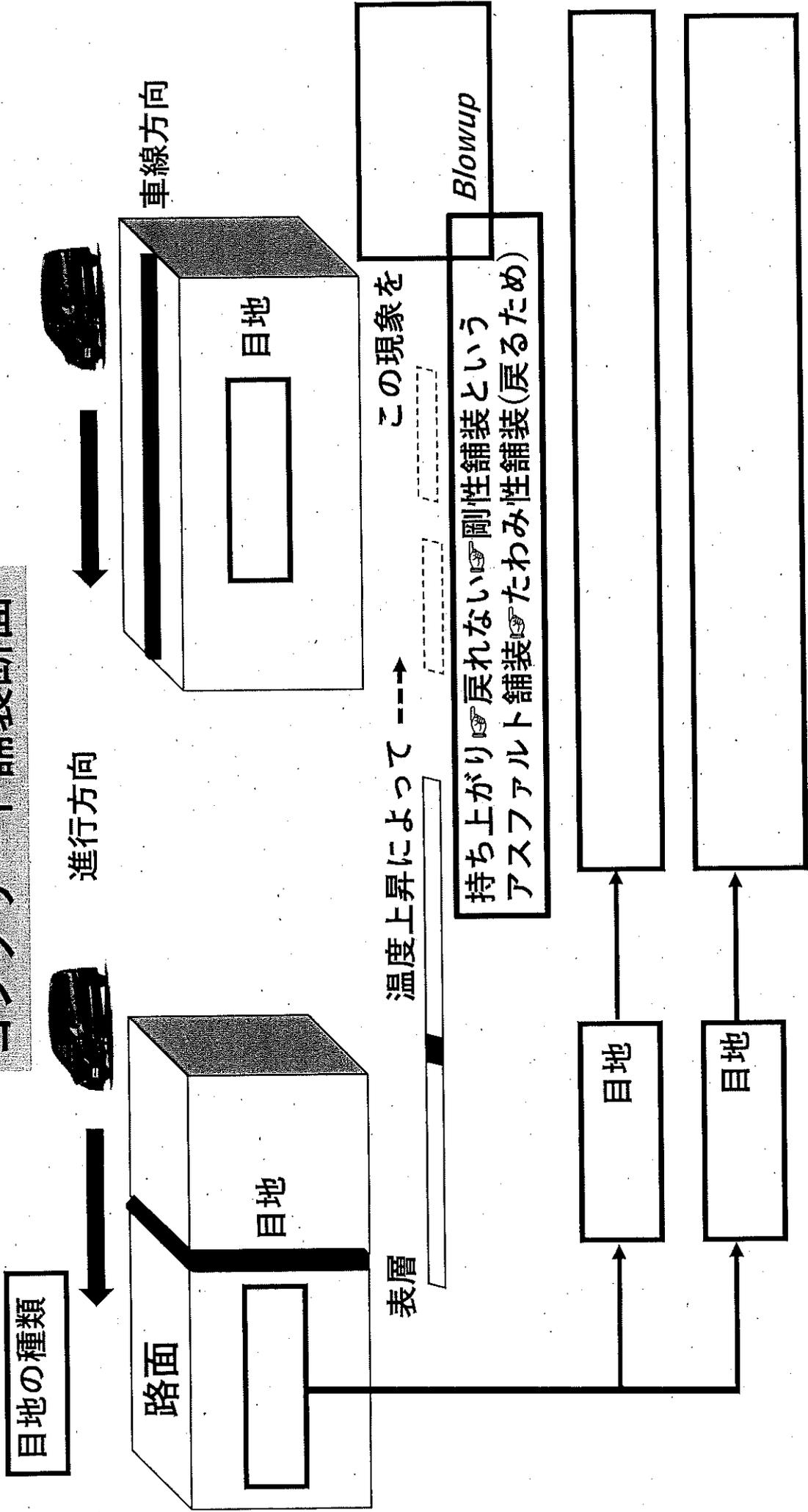
温度変化 による	路面の形 状	現象
①		
②		

路床
(約1m)標準
・構築路床
・現地盤
・路体

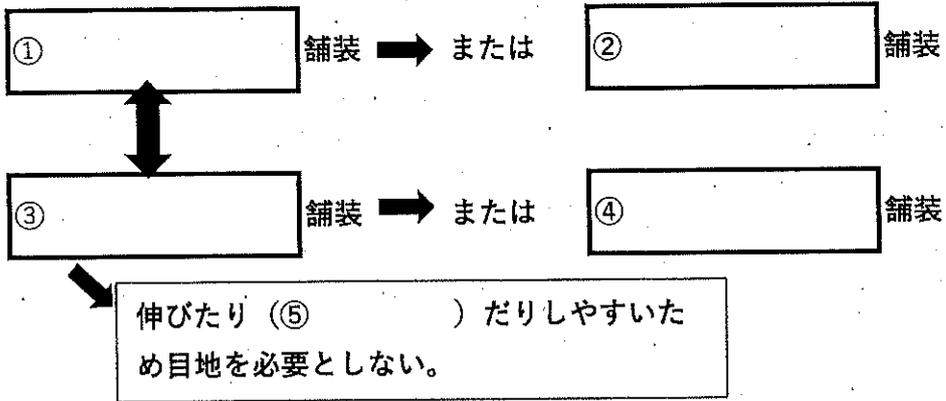
養生中？ (コンクリートが硬化するまでの、適切な環境を保つこと)の収縮が(⑥)とひび割れが発生しやすい。

コンクリート舗装の構造

コンクリート舗装断面



舗装名



交通荷重の支持方法



コンクリートは (6)) で支える。
 アスファルトは (7)) で支える。

アスファルト		コンクリート	
基層	⑧ cm	コンクリート版	⑫ cm
表層	cm	路盤	⑬ cm
上層路盤	⑨ cm		
下層路盤	⑩ cm		
合計	⑪ cm	合計	⑭ cm

アスファルトの維持・修繕

batching ハッチングして
 ✖ なら ⑮
 overlay オーバーレイして
 ✖ なら ⑯

打ち換え (新しく舗装する)

タックコートを敷き

問1

道路のコンクリート舗装における施工上の留意点に関する次の記述のうち、適当でないものはどれか。 R6-27
(1) コンクリートの打込みでは、均一に隅々まで敷き広げ、フィニッシャ(※1)あるいは平板振動機等(※2)で締め固める。

(2) 打ち込んだコンクリートの最終仕上げでは、表面の水光りが消える前に、ほうきやブラシ等で粗面仕上げをする。

(3) コンクリート舗装の横目地には、膨張目地と収縮に対応するダミー目地を設ける。

(4) 表面仕上げの終わった舗装版は、乾燥から保護し、所定の強度に達してから交通開放する。

問2

道路のコンクリート舗装の施工に関する次の記述のうち、適当でないものはどれか。 R5-22

(1) 普通コンクリート舗装の路盤は、厚さ 30cm 以上の場合は上層と下層に分けて施工する。

(2) 普通コンクリート舗装の路盤は、コンクリート版が膨張・収縮できるように、路盤上に厚さ 2cm 程度の砂利を敷設する。

(3) 普通コンクリート版の縦目地は、版の温度変化に対応するよう、車線に直交する方向に設ける。

(4) 普通コンクリート版の縦目地は、ひび割れが生じても亀裂が大きくならないためと、版に段差が生じないためにダミー目地が設けられる。

問3 道路の普通コンクリート舗装における施工に関する次の記述のうち、適当なものはどれか。 R4-22

(1) コンクリート版が温度変化に対応するように、車線に直交する横目地を設ける。

(2) コンクリートの打込みにあたって、フィニッシャ(※1)を用いて敷き均す。

(3) 敷き広げたコンクリートは、フロート(※3)で一様かつ十分に締め固める。

(4) 表面仕上げの終わった舗装版が所定の強度になるまで乾燥状態を保つ。

問4

道路のコンクリート舗装に関する次の記述のうち、適当でないものはどれか。 R2-22

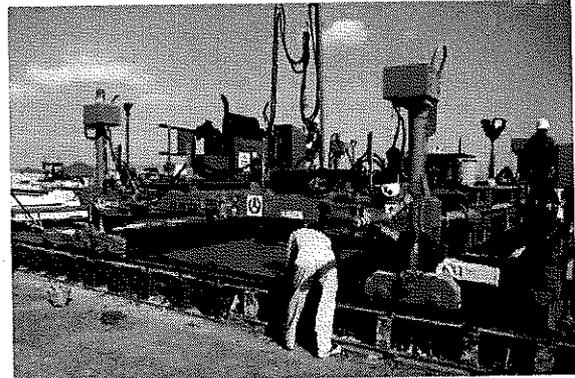
(1) 普通コンクリート版の横目地には、収縮に対するダミー目地と膨張目地がある。

(2) 地盤がよくない場合には、普通コンクリート版の中に鉄網を入れる。

(3) 舗装用コンクリートは、一般的にはスプレッタ(※4)によって、均一に隅々まで敷広げる。

(4) 舗装用コンクリートは、養生中の収縮が十分大きいものを使用する。

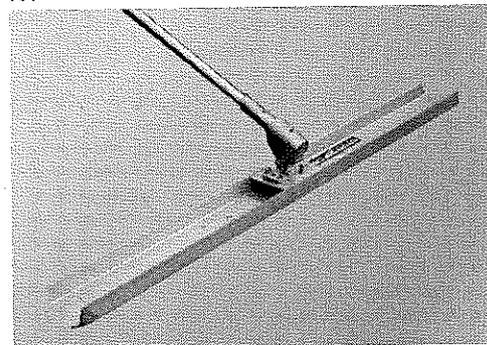
※1



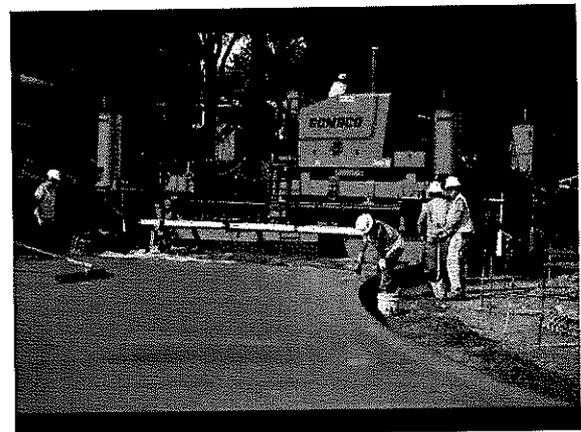
※2



※3



※4



保健体育科（保健）学習指導案

日 時：令和7年10月15日（水）6校時

場 所：2年1組教室

対 象：2年教養文化系列（19名）

教科書：現代保健体育（大修館書店）

1 単元名 （4）健康を支える環境づくり （イ）食品と健康

2 単元の目標

- （1）食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること、また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて理解することができるようにする。（知識）
- （2）食品と健康に関する情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明できるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- （3）食品と健康について自他の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

3 単元と生徒

（1）単元観

この単元では、日常生活に密接に関わる「食品の安全」をテーマとして扱う。さらに、HACCP等について理解し、「食品の安全がどのように守られているか」を知ることで、食生活を個人の衛生行動と社会的仕組みの両面から捉えさせる。生徒が自らの食習慣や行動を見直すとともに、社会の一員として安全な食環境づくりに参画する態度を養うことを目指す。

（2）生徒観

明るく活発な生徒が多く、健康について関心が深いクラスである。しかし、これまで食品の安全や健康への影響について「自分事」として考える経験が少なく、授業でのワークや具体例を通じて、身近な生活と結び付けることが必要である。

（3）指導観

食品の安全性を確保するためには、個人の衛生的な食習慣だけでなく、食品を生産・加工・流通・販売するすべての過程での安全管理が欠かせない。HACCPのような食品衛生管理の仕組みを理解し、生徒に「食品の安全は社会全体で支えている」という認識をもたせることで正しく選択・行動できる力を深めさせたい。

4 単元の指導と評価の計画（全3時間）

時	主たる学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 本 時	食中毒の原因や予防法について理解する。 HACCPの考え方を理解し、家庭や日常生活での衛生的な行動を考える。		ワークシート	
2	食物アレルギーについて理解する。 食品パッケージのアレルゲン表示を読み取り、安全な選択について考える。	ワークシート		
3	これまで学習した食中毒・HACCP・食物アレルギーの内容を踏まえて食の安全を守る行動について考える。		ワークシート	ワークシート 観察

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に活用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。	食品と健康について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。

6 本時の学習（本時 1 / 3）

(1) 目標 食中毒の原因や予防法を理解し、家庭や日常生活で実践できる方法を説明することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 展開

	生徒の学習活動	教師の指導・留意点等	評価の観点
導入 5分	1 これまでわが国で発生した食中毒の事例から、原因について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 問題意識を高めるために、身近な事例を提示する。 	
	2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">目標 「食中毒を防ぐための具体的な方法を考え、自身の生活を振り返ろう」</div>		
展開 40分	3 食中毒の原因や種類、予防法を整理する。【ワークシート】	<ul style="list-style-type: none"> 食中毒について理解を促すためにパワーポイント、イラストを用いて説明する。 専門用語は簡略化して「危ない場所を見つけて、どう防ぐか？」考えさせる。 問題点が分かりやすいように、食中毒予防の三原則に焦点を当てて説明する。 	食中毒の予防について、自己の課題を発見し、解決方法を選択して説明している。 【思考・判断・表現】（ワークシート）
	4 HACCPの衛生管理方法について説明を聞く。 ① 工程を分ける ② 危害要因を考える ③ 重要管理点を決める		
	5 動画を視聴し、問題点を見つけて対策を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">発問1 「動画から問題点を見出し、対策を考えよう」</div>		
	6 問題点と対策について、グループで意見を出し合い発表する。 7 家庭や学校でもできる工夫を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">発問2 「家庭や学校でできる自分なりの工夫を考えよう」</div>		
まとめ 5分	8 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性は、個人の取組とHACCPをはじめとする社会的な取組で支えられていることを確認し、次時へとつなげる。 	

令和7年4月23日

研修部

令和7年度職員研修「救急救命講習会」実施要項

- 1 日 時 令和7年5月15日（木）15：40～16：40
- 2 目 的 心肺蘇生やAEDの使用法を改めて確認するとともに、不測の事態への対処法について学ぶ。
- 3 場 所 第2体育館
- 4 対 象 職員及び運動部生徒（各部1，2名程度）
- 5 講 師 由利本荘市消防署西目分署消防隊員
- 6 内 容 心肺蘇生法、AEDの使用法、外傷や出血時の手当等
- 7 担 当 誘導・・・研修主任 ※控室無し
進行・・・研修部 ※ワイヤレスマイク使用
- 8 準 備 ワイヤレスマイク・講師用椅子
- 9 その他 各部の参加人数を、後程確認します。

令和7年度 トラブル防止等に係る校内研修会

秋田県西目高等学校

本日の研修の流れ

組織対応のメリット

- ①生徒を守る ②先生一人一人を守る

組織対応において大事なこと

- ①情報共有を図る ②最悪に備えて、迅速に動く ③正確な記録を残す

保護者対応において大事なこと

- ①話を聞く姿勢 ②事実と推測（認知）を分けて考える ③謝罪が必要な時
④できないことはできないとして組織で決定して毅然と断る
⑤揺さぶりに動じない

記録を残す上で大事なこと

- ①事実の記録は客観的に ②黒塗りでできないようなことは書かない
③情報共有と記録を一体化する ④情報を記録するときに気付きがある

マスコミ対応において大事なこと

- ①初動の段階で「ない」と言わない ②嘘をつかない

いじめの個別対応において大事なこと

- ①被害を訴える生徒に寄り添う ②いじめを周りで見ている生徒のケア
③情報提供者を守る ④継続的な関わりを徹底する

組織対応のメリット

①生徒を守る

生徒のためになる。苦しんでいる生徒を組織的に守る。いじめの訴えであれば、いじめをしている生徒に行為をやめさせる。

組織対応のメリット

②先生一人一人を守る

何か問題があった時は、最後は組織で責任をとるのだから、皆で言って、情報共有して、組織で対応する。情報共有は、一人一人の先生方で責任を負わない、守るためのものでもある。

組織対応において大事なこと

①情報共有を図る

担任の先生が、認知して、一生懸命何らかの理由で抱え込んでいるということはあってはならないということを、改めて共有しておきたい。関係教職員、管理職はもちろん、事案によっては、委員会担当、部活動担当、養護教諭等も皆知っておかなければならない。

組織対応において大事なこと

②最悪に備えて、迅速に動く

最悪に備えて、迅速に手を打つということ。例えば、金曜日の下校時間ぐらいに、深刻ないじめの話を認知したら、どうするか？土日に何かあったら、と想定して金曜日に対応する。最悪を想定して、これは危ないなというものは、しっかり即時対応する。何もなければそれはそれでよしとなる。

組織対応において大事なこと

③正確な記録を残す

いつ、どこで、どういう情報を認知し、どういう情報共有をし、それに基づいて管理職がどういう判断、意思決定をし、どういう措置を取るかを決め、誰が保護者と何時何分に電話をして、これこれの内容について会話をしたという記録をしっかりと残す。これは、何かあった時に、万が一最悪のことが起きたときに、先生方を守る「お守り」になる。

組織対応において大事なこと

③正確な記録を残す

しっかり作って、一旦作った以上は「マズイな」と思っても消さない、いじらない、棄てない。隠蔽は最悪なので、公文書の管理ルールに則ってしっかりと保存しておく。

保護者対応において大事なこと

①話を聞く姿勢…傾聴・受容・共感

傾聴…まず相手が何を伝えたいかに意識を向け、相手の話を注意深く、真摯に耳・目・心を用いて聴く。

受容…相手の存在を認め、言っていることについて先入観や自分がどうしたいかを一度脇に置いて、肯定的な配慮をし、話の本質的な内容を受け止める。

共感…話を聴いた上で、相手の立場になって、その気持ちと相談するに至った背景(事情・心情等)やニーズを理解し共有する。

保護者対応において大事なこと

②事実と推測(認知)を分けて考える

「事実」と「推測(認知)」を整理し、分けて考える。

(例)

「〇〇さんが学校帰りにけがを負った」のは「事実」だが、それが「いじめによるものである」というのは、保護者の「推測(認知)」かもしれない。

保護者対応において大事なこと

②事実と推測(認知)を分けて考える

- ・話を聴きながら整理、確認して、その願いを読み取ることが大切。
- ・その際には、事実と推測(認知)を整理する。
- ・保護者の願いと子供の願いが違う(利害関係が異なる)ことも多々ある。

気持ちを受け止めることと、事実を認めることは違う。事実を確認せずに同調してしまえば、そのことを認めたことになるので注意が必要。

保護者対応において大事なこと

③謝罪が必要な時

心理的事実と客観的事実を区別した上で、適切に謝罪。

- ・心理的事実には、最初に謝罪「そのような気持ちにさせてしまい申し訳ない。」
 - ・客観的事実は、きちんと調査「事実関係についてはお調べしてからお答えします。」
- 客観的事実が確認できていない時点では、曖昧な回答や約束はしない。その場しのぎの不用意な発言、言い逃れは、その後の対応を長期化させる。

③謝罪が必要な時

(良い例)

○「この度は、御心配をお掛けして申し訳ありません。事実関係については調べた上で、またお話をさせていただきます。」

「心理的事実」を受け止め、同時に「客観的事実」については調査の上、回答することを告げる。同時に告げる意味は、この段階では学校の責任等については調べてみないと分からないこと、これから十分に事実を調べた上で答えることを理解してもらうため。

③謝罪が必要な時

(悪い例)

×「この度は、指導上の不手際により、トラブルが起こってしまい、申し訳ありません。」

×「私どもに限ってそんなことはないとは思いますが…」

「客観的事実」の確認をしないうちに謝罪すると、責任の所在が不明確なまま、全面的に相手の言い分を認めたことに。また、言い逃れをしては、相手の不信感が増すばかり。

保護者対応において大事なこと

③謝罪が必要な時

心理的事実に対して、道義的責任（「子供を悲しませてしまい、教育者として申し訳ない。」）として謝罪をすることで、その後の相手とのコミュニケーションが円滑になる場合もある。ただし、このとき、相手に対して、客観的事実についての謝罪と勘違いされれば、かえって解決を困難にする。何に対する謝罪なのかを、はっきりさせることが大切。

保護者対応において大事なこと

④できないことはできないと組織で決定して毅然と断る

できないことはできないと、きちんと組織で決定して、毅然と断ることが大事。ただ、もし非があるのであれば、そこは率直にお詫びし、再発防止を約束すればよい。それ以上対応できないところは、徹底して「組織としてこれ以上対応できません」と言えよ。「できません」というと角が立つので「ご期待に添えかねます」と丁寧な言葉で断る。

保護者対応において大事なこと

⑤揺さぶりに動じない

「録音させろ」「文書で回答してくれ」「警察に告訴します」「弁護士連れて行きます」「内容証明出します」これらは全て揺さぶりであり、いちいち動じないようにしたい。相手が録音機を出すなら「どうぞ。ただ、間違いがあったら困るのでこちらも録音させてくださいね」向こうが自分から録音すると言っているのだから、こちらに録音するなどは言えない。こちらとしては録音機を置いた方が絶対によい。

保護者対応において大事なこと

⑤揺さぶりに動じない

「警察に告訴します」に対して、「困ります、学校のことだから」と説得に入るから変なやりとりが発生する。向こうの立場が有利になり「何でダメなんですか」となる。「どうぞ」と言うと喧嘩になるので、神妙な顔をして「致し方ありませんね」「学校の責任において解決しようと思ったのですが、そこまでおっしゃるなら」と言って、警察に行ってもらった方がよい。警察も「こんなの事件になりませんよ」となる。動じてあたふたしないことが大事。

保護者対応において大事なこと

⑤揺さぶりに動じない

「文書で回答してくれ」ということもよくある。「できません」「何でできないんですか」というやりとりが発生して、ものすごいエネルギーを消耗して、嫌な思いもする。「文書自体が独り歩きすると困る。ネットに晒されたら」と言うが、一人歩きしても困らない文書をきちんと組織として作成して渡せばよい。ネットに晒されても何の問題ない、個人のプライバシー等にも引っかけられない完璧な文書を作って出せばよい。

保護者対応において大事なこと

⑤揺さぶりに動じない

その時に「用意しますが、言った言わないになったら困るので、念のためにそちらのご主張なり、何を求めているか回答書を、申し訳ないですけども文書に作ってください」と言う時、「ああ、面倒くさいな」となって半分くらいは文書を持ってこない。持ってきたら回答しなければいけない。でも、組織としてきちんと検討して、一人歩きしても大丈夫な文書を出せばよい。

保護者対応において大事なこと

⑤揺さぶりに動じない

要はそういうことで駆け引きに乗らない。悪くないのであれば、堂々としていけばよい。悪いことがあるなら、迅速かつ誠意をもって対応しなければいけない。非がないならば堂々としていけばよい。

記録を残す上で大事なこと～情報開示請求を念頭において

①事実の記録は客観的に

記録の中に、こちらの主観が必要以上に混ざってしまうと、事実確認が曖昧になったり、記録を開示した際に相手から誤解されたりする恐れがある。

- × 保護者が、攻撃的な態度で、暴言を吐きながら、職員室に乗り込んできた。
- 保護者(父)が、怒った表情で「担任を出せ。」と言いながら、職員室に入ってきた。

記録を残す上で大事なこと～情報開示請求を念頭において

②黒塗りできないようなことは書かない

例えば、「クレーム」「親が激怒していた」などは、プライバシーではなく本人の情報だから黒塗りにはできない。余計なことは書かない。「クレーム」ではなく「申し出」、「激怒していた」は「大きな声で言っていた」ぐらい。そういう人に限って「私は激高していない！」とか、「クレームってどういうことですか！」と、そういうところに噛みついてきて、状況を悪化させる原因となる。記録を残す以上は1回コッキリの勝負だということを確認しておきたい。

記録を残す上で大事なこと～情報開示請求を念頭において

③情報共有と記録を一体化する

ある事案の記録をデータベース的に確認できる、あるいはメールのCC機能で皆が見て、管理職が「では、その方針で行きましょう」と皆に伝えていて、そういう情報が蓄積されているならば、それを文書として残しておけばよい。わざわざ別に文書を作る必要はない。そういう仕組みがないのであれば、別途、事案ごとに記録を作る必要がある。

記録を残す上で大事なこと～検証・改善に向けて

④情報を記録するときに気付きがある

組織として、速やかに動いているかどうか
チェックになる。何もやってなければ書くことがない。認知したのかどうか、例えば金曜日に認知しているのに月曜日に動いている、遅い、となる。最悪に備えて迅速に動いているかどうか、手を動かしているか、ということの確認になる。そういう意味でも記録化は重要である。

マスコミ対応において大事なこと

①初動の段階で「ない」と言わない

例えば、自殺の場合、初動の段階で、生徒たちの中のこととは分からない。また、抱え込み、隠蔽に走ることもあるかもしれない。だから、「ない」と言わない事が鉄則。ないことの証明はできない。どう答えるかと言えば「重大な事案です、お悔やみ申し上げます」「大変重要な事案ですので、現在、全教職員に聴き取り、あるいは関係の生徒にヒアリング等々丁寧にやって、原因等々、経緯に何があったのかを確認させてください」となる。

マスコミ対応において大事なこと

①初動の段階で「ない」と言わない

それでは記事ならないので、記者は「ない」と言わせたい。「ない」と言わせて、次の日「学校側に非なし、いじめ等々問題なし」といったん火消しをさせて、その後、優秀な記者は独自に動いて特ダネ的にちょっとしたことでも取ってきて、翌々日の新聞に、「こんなことがあった」「学校嘘の会見」「隠蔽体質」「教職員口裏合わせて隠している」となる。だから、決して「ない」とは言わないこと。

マスコミ対応において大事なこと

①初動の段階で「ない」と言わない

「いつまで確認するんですか？」と時期を聞かれることに対しては「年内です」など常識的な範囲で答えざるを得ない。「相手のある話なので、そこは申し上げられないが、年内を目処にしっかり確認し、もう一度この場でご説明をします」という約束はせざるを得ない。それで記者は収まる。「分からない」と言うと記者は「分からないとはどういうことか」と怒ってくるので、「分からない」と言うよりは「確認しています」と言う。大事なことなので確認したい。

マスコミ対応において大事なこと

②嘘をつかない

例えば、自殺事案があって、「〇〇高校の生徒ですか？」とマスコミが全部の学校に電話を掛けまくることがある。ほとんどの学校は該当なしで、「違います」と答えるが、正しい答え方は「言えません」である。「個人のプライバシーに関わるので、お答えできません」「在籍照会には電話ではお答えしません」というのが正解。なぜなら、「違います」「違います」「違います」…と消去法で、「言えません」となったら、じゃあここだと分かってしまうから。

マスコミ対応において大事なこと

②嘘をつかない

どの学校も「言えません」が正しい。「違います」と「言えません」は違う。「言えません」はマスコミ的には必ず「なぜですか？」と聞かれるので、その正当な理由を説明すればよい。「なぜ言えないんですか？」「個人のプライバシーだから言えません」「現在確認中だから確たることは言えません」と、きちんと正当な理由を申し延べれば、記者も「ああそうか」となる。そういう言葉は大事だから、絶対に嘘をつかないということが大切。

いじめの個別対応において大事なこと

①被害を訴える生徒に寄り添う

その生徒が苦痛を感じたのであれば、どんなことであれ対応しなければいけない。「そんなこと言っちゃダメだ」とか、「あなたもこんな点があってどうなの」という意見もあるかもしれない。気持ちは分かるが、それは別の場面できちんと指導して欲しい。被害を訴えているのだから、やっていることを止めなければいけないし、対応しなければいけない。

いじめの個別対応において大事なこと

①被害を訴える生徒に寄り添う

真ん中に立つのではなくしっかり寄り添う。

特に、保護者との関係で、先のような話は全部こじれていっている。最初の掛け違い、「何かうちの子が悪いということですか」というようなことは全部こじれていっている。そこは丁寧に対応したい。こじれにこじれて、マスコミに言うぞ、議員に言うぞ、教育長を呼べとか、全部面倒くさくなっていく。初動でしっかり寄り添って対応してあげることが大事。

いじめの個別対応において大事なこと

②いじめを周りで見ている生徒のケア

おかしいなと思って、言おうとは思うけれども、やっぱり勇気がないという生徒もいると思う。それは正しいことなんだということを分かりやすく教えてあげて欲しい。大人の世界でも、不正があれば内部通報する。上司であろうと、同僚であろうと一緒に、大人も一緒だと。決して卑怯なことではないと、理念として正しいことだと。もしも自分がいじめられたときは、誰か言ってくれるという相互互助的な考え方もあるといえはあ。情けは人の為ならず。

いじめの個別対応において大事なこと

③情報提供者を守る

情報提供者が一番困ることは、自分が告発したことが万が一、その人や周りに知れ渡ること。これはきちんと生徒に「絶対あなたが言ってきたことはバレないよ」と約束してあげること。「絶対にバレないからね。安心してね。」と約束した以上、絶対に守ること。それで「安心だ、ちゃんと守ってくれるんだ」となれば、他の生徒も出てくるようになる。コッソリ言ってきた生徒がバレないように最大限配慮する。

いじめの個別対応において大事なこと

④継続的な関わりを徹底する

話合いが終わって、解決したように見えても、生徒の様子など、要望や苦情の原因になったことについては、**継続して観察**する。

また、生徒の様子や学校側の改善努力などを、**定期的に保護者に報告**する。その時には、家庭での様子も聴きながら、互いのコミュニケーションを継続し、信頼関係を構築し続ける。

トラブル防止に向けて

1 点目

「初動・初期対応が全て」

トラブル防止に向けて

2点目

「とにかく、組織的に」

トラブル防止に向けて

3点目

**「予見・偏見を排除し、
訴えに真摯に向き合い、
寄り添う」**

トラブル防止に向けて

4点目

「連携を密に」

振り返り

組織対応のメリット

- ①生徒を守る
- ②先生一人一人を守る

組織対応において大事なこと

- ①情報共有を図る
- ②最悪に備えて、迅速に動く
- ③正確な記録を残す

保護者対応において大事なこと

- ①話を聞く姿勢
- ②事実と推測（認知）を分けて考える
- ③謝罪が必要な時
- ④できないことはできないとして組織で決定して毅然と断る
- ⑤揺さぶりに動じない

記録を残す上で大事なこと

- ①事実の記録は客観的に
- ②黒塗りできないようなことは書かない
- ③情報共有と記録を一体化する
- ④情報を記録するときに気付きがある

マスコミ対応において大事なこと（※マスコミ対応に限らず、外部対応全般と捉えて）

- ①初動の段階で「ない」と言わない
- ②嘘をつかない

いじめの個別対応において大事なこと

- ①被害を訴える生徒に寄り添う
- ②いじめを周りで見ている生徒のケア
- ③情報提供者を守る
- ④継続的な関わりを徹底する

ご静聴いただき
ありがとうございました

演 習

○2人1組のペアになってください。

1人は保護者役となって、学校に対する意見や要求を、
もう1人は教員役となって、その保護者の対応を、
していただきます。

○ロールプレイ後に、それぞれの役を演じてみて、自身で
感じたこと、相手から感じたことなどを、それぞれフィード
バックしていただきます。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

国語科

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	論理国語 (234k)	19	19
	古典探究 (2uvB)	26	26
	現代の国語 (11・12・13)	92	74
	文学国語 (31kv・32・334k)	52	52
	論理国語 (33x・34y)	34	32
	実用国語	20	15
	言語文化 (11・12・13)	91	73
	文学国語 (2v・212k・234k)	35	34
	計	369	325

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.8
2	3.7
3	3.7
4	3.8
5	3.9
6	3.8
7	3.7
8	3.7
9	3.8
10	3.8
計	3.8

- ・いつもありがとうございます。
- ・これからもっと技能をつけられるように授業に集中したい。
- ・今回の単元は前回の単元によりも理解できた。
- ・授業の終わりのチャイムが鳴る10分前ぐらいに立ったり少し伸びたい。
- ・難しいのや意外とできることがあった。
- ・発表する機会もあり、わかりやすい。
- ・物語が多いからとても面白い。
- ・二年生からも含めて苦手だった国語が先生のお陰で好きになりました！！
- ・授業とても楽しいです！！これからもよろしくお願いします！！
- ・かいきとゆうまがうるさくて集中しづらい。
- ・とがじゅんの授業最高にわかりやすい！これからも楽しい文学よろしくお願いします！
- ・字がきれいだととても分かりやすいです。国語が好きになりました。
- ・ノートを書くのが楽しい。
- ・例えが分かりやすく、内容が理解しやすいので助かります。 など

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

- ・全体的に評価は高いが、テスト範囲を終わらせることを優先した講義型の授業が中心になってしまった。じっくり表現させる時間も確保できなかったので、今後は意識的にそういう時間も増やしていきたい。
- ・授業に真剣に取り組む姿勢や授業の雰囲気、状況は良好だと感じるが、力がついたという実感が得られていない。小さな改善を重ねながら、もう少しこのまま継続してみて、成長を実感させられるか経過を観察したい。
- ・質問項目9について。授業時の生徒指導をメリハリをつけてしっかりやっていきたい。
- ・質問項目2、3について。知識事項であれば身に付いた力として実感しやすいが、読解力向上を実感させることの難しさを改めて感じている。ベースとなる語彙を増やすとともに、短文での理解を促すなど、スモールステップで手応えを感じさせる工夫を模索していきたい。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)2回目

教科名

国語科

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	論理国語 (212k・234k)	30	27
	古典探究 (2uvB)	26	26
	現代の国語 (11・12・13)	92	78
	文学国語 (31kv・32・334k)	52	51
	論理国語 (334k・33x・34y)	47	34
	実用国語	20	15
	計	267	231

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	2回目
質問1	3.7
2	3.7
3	3.8
4	3.8
5	3.8
6	3.8
7	3.8
8	3.8
9	3.7
10	3.7
計	3.76

- ・ 4 定じゃ 8 5 は目指したい
- ・ 楽しい
- ・ あと少しよろしくお願いします!!!
- ・ わかりやすい

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

・担当する1年「現代の国語」と3年「文学国語」全クラスでアンケートを実施した。前回同様、総じて3年生が高く、1年生が低い傾向にある。前回特に低かった1年生の質問項目2、3、8については上昇した。生徒に、学習活動に参加した実感や「できた」手応えを持たせることができた成果だと言える。また、アンケート集計のクラス平均を見ると授業の雰囲気や評点と連動していると考えられる結果となった。

・全ての項目で良い評価であったが、項目3については、少し平均評価の数値が低い。どうしても3年生は授業が少なくなり、考査に合わせて授業をするため、講義型の授業になりがちである。

・前期同様、授業に真摯に取り組む姿勢が見られ、雰囲気も状況も良好だと感じるが、力がついたという実感は生徒も授業者も不十分である。

・基礎力向上のために生徒の実態に合わせた授業、考査問題、評価方法を継続して検討していくことが必要である。

・次年度は主体的に表現させるような機会を意図的に設け、学力向上はもちろん、もっと「論理国語」や「実用国語」という科目に興味や関心を抱いてもらえるような授業展開を目指したい。また、これら科目は、文学や古典と比較すると実社会につながりやすいと思うので、キャリアを意識した授業内容へと発展させていければとも考えている。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

地歴公民

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	2v日本史探究	7	6
	歴史総合(123組)	90	81
	31地理	23	21
	2uv公共	20	19
	計	140	127

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.5
2	3.3
3	3.4
4	3.5
5	3.4
6	3.3
7	3.3
8	3.2
9	3.3
10	3.4
計	3.4

もうちょっと字をきれいに書いてほしい

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

授業のねらいをしっかりと示すことができているようである。しかしいずれも生徒の評価はいまひとつであることから、上げていきたいと思う。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

数学

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	数学A (1u, 1v, 2a)	54	53
	2u数学B、3r数学III、3C数学総合演3e、数学総合活用	30	30
	数学II (32, 31k, 3c, 334k) 数学総合探求 (3 s) 数学C (3 r)	66	65
	数学I (11) 数学A (2e)	36	33
	数学II (2uv, 2 c、212k、234k)	63	57
	計	249	238

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.7
2	3.6
3	3.5
4	3.7
5	3.7
6	3.7
7	3.4
8	3.6
9	3.7
10	3.7
計	3.6

難しいので勉強頑張ります。
 次のテスト90以上目指す。
 授業の進むスピードがはやいです。
 数I忘れてるところがたくさんあったから、おもいだせてよかった。
 数IIになったらむずかしいと思うから、復習しっかりしたい。
 とても分かりやすい。
 数学が苦手なので理解できるように頑張ります。
 数学が一番テストの成績が良かったです。
 数学の授業が楽しくできているので良かったです。
 点数取れるように頑張りたいです。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

全体平均にも表れているが、「7. 授業の中に、文章などで自分の考えをまとめる時間がある。」の項目がすべての担当者が極端に低く数学科全体の課題を言える。数学の特性上、「問題を解ける」ことに時間をかけるため、「自分の考えをまとめる」時間はあまり取れなく、数値が低いことが考えられる。しかし、「問題が解ける」においても、小テストや考査時は解けても、少し間を置く忘れてしまったり、途中計算や説明能力が不足していると思う事が多々ある。これらの原因として、「問題が解ける」の質がまだまだ低く、深い理解に至っていないことが考えられ、質を上げるためには「自分の考えをまとめる」時間が必要と考える。「問題が解ける」×「自分の考えをまとめる」=「深い理解につなげる」が目指すものとする。

改善方法としては、自分でしっかり考える、周りと考えをシェアする、共通理解を図り整理する、という流れを踏むことで、「自分の考えをまとめる」ことができると考える。数学の特性上「自分の考えをまとめる」=「自分の考えを、解答の途中計算や説明で表現する」と読み替えたい。例えば、例題について、自分で考える時間を十分取り、自分の分かったこと、不明な点を整理できた段階で周りや相談する時間をとり、最後に全体で代表者の考えをくみ取りながら授業者がまとめるという手法が考えられる。これらの段階を踏むことで、その後の練習問題で記述も含めた良い解答や、長期的な理解につなげたい。進度的な問題もあるため、難問や重要な問題等でそういう時間を設定するなど工夫できればと思う。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)2回目

教科名

数学

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	数学A (1u, 1v, 2a)	54	50
	2u数学B、3r数学III、3C数学総合演3e、数学総合活用	44	32
	数学II (32, 31k, 3c, 334k) 数学総合探求 (3 s) 数学C (3 r)	66	65
	数学I (11) 数学A (2e)	36	32
	数学II (2uv、2 c、212k、234k)	63	49
	計	263	228

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	2回目
質問1	3.7
2	3.6
3	3.6
4	3.7
5	3.6
6	3.7
7	3.6
8	3.7
9	3.7
10	3.7
計	3.7

一つ一つ丁寧に教えてくれて分かりやすい
 数学の魅力を知っていますか
 復習になってる
 4回目のテストもがんばりたい
 結構分かりやすい。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

全体平均にも表れている通り、「7. 授業の中に、文章などで自分の考えをまとめる時間がある。」の項目が一番低い結果となった。この項目は前回の調査で、すべての担当者が一番低い項目であったため数学科でも話題になった。問題を解くことに時間をかけるため、自分の考えをまとめるという項目が低い傾向になるのは、数学の特性上自然なことであることを確認した。一方で、「文章などで自分の考えをまとめる時間がある」を、「他者の意見も共有して自分の意見としてまとめる」「途中計算や説明を必要とする記述問題を設定し評価する」など数学科として、自然な読み替えをすることで、この項目の改善を図るようにした。結果は、全項目で1番低いものの、前回との比較では、0.22ポイントのプラスとなり、一番向上した項目でもある。先に記述した通り、数学の特性上、低い数値になる傾向は理解できる一方で、上昇幅が一番高かったことから、数学科として改善に向けた取り組みができたと判断する。今後もこの項目が極端に低い数値にならないよう取り組みを継続したい。

その他としては、一回目と比較して全体で0.03ポイントプラスになっている中、「5. 発声・板書・説明のしかたに気を配り、わかりやすい授業である。」が0.04ポイントマイナスであることは少し気になることである。全体と比較しても極端に低い項目ではないため課題とまではいかないが、数学科として周知し次回に向けて丁寧な指導を意識していきたい。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

理科

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	生物基礎 u v、212k、234、a	78	69
	化学基礎 u、化学基礎 v、物理基礎 u v	54	48
	31svk科学と人間生活、32科学と人間生活	44	37
	計	176	154

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.4
2	3.5
3	3.6
4	3.7
5	3.7
6	3.5
7	3.4
8	3.1
9	3.5
10	3.6
計	3.5

<p>理解の仕方がわからない。 どうやって単語を覚えればいいのかわからない難しい。 授業わかりやすいです。 内容がわかりやすい。 猫の授業うけてみたかったです。どんな授業だったのか気になる、猫見たかった。 第二回はテストもっと高い点数とりたいです。 第二回も頑張ります！ 授業たのしー。 テストの点数高くて嬉しかった。次も頑張ります。 次のテストは90点めざします。 ありません。 たのしいです。 わかりやすい。 中学校の勉強より楽しいです。</p>
--

授業評価の結果から見えてきた課題と改善方法について

全体的に平均以上の水準となったが、質問7及び8の考える、発表、説明をする時間の結果が低かった。発問の工夫や、問題演習を通したグループワークからの発表を促すなど、今後取り組んでいきたい。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

英語

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	2uv, 2x, 2y英語コミⅡ, 3v論理・表現Ⅱ, 3A実践英語	85	77
	11, 12, 13英コミⅠ, 2uv論理・表現Ⅱ, 2D論理・表現Ⅱ	117	112
	3k1英語コミⅡ, 32英語コミⅡ, 34k英語コミⅡ	45	45
	計	247	234

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.6
2	3.5
3	3.7
4	3.6
5	3.7
6	3.7
7	3.7
8	3.5
9	3.7
10	3.7
計	3.6

英語のスキルが上がっている。
 授業とても楽しいです！英語力アップした気がします！これからもよろしくお願いします！
 その教科にちなんだトリビアも話してくれるから、暇と思う時間がない。
 長文読解力をつけたい。
 いつも理解しやすい授業をしてくださりありがとうございます！文法はがんばります。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

2 この授業を通して、教科の力がついて成長したと実感している。
 8 授業の中に発表や説明、質問する機会がある。
 上記の2項目が他の項目と比較して低い。本校生徒は英語を苦手とする生徒が多いため、理解を深めてもらうためにしている教師側の説明がやや多いのではないかと考えられる。
 説明する場面、生徒が活動する場面のバランスを考慮しながら、生徒が達成感を感じられる授業作りに励みたい。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)2回目

教科名

英語

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	2uv英語コミ・3v論表・3A実践英語	42	18
	2uv論表Ⅱ・2D論表Ⅱ・11, 12, 13英コミⅠ	116	105
	31k英コミⅡ、32英コミⅡ、334k英コミⅡ	45	44
	212k英コミⅡ・234k英コミⅡ	30	28
	計	233	195

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	2回目
質問1	3.8
2	3.7
3	3.7
4	3.8
5	3.8
6	3.7
7	3.6
8	3.6
9	3.7
10	3.7
計	3.7

- ・頭に入る授業で楽しいです。
- ・いつも分かりやすく教えてくれてありがとうございます。

授業評価の結果から見えてきた課題と改善方法について

- 1 本時の目標を明確に定め、4技能のバランスを考えた授業を行う。
 - 2 本校生徒の英語力を踏まえ、丁寧な説明を心がける。
 - 3 英語を使っていることに喜びを感じてもらえる活動を取り入れ、達成感や満足感を感じてもらうことで学習意欲の向上をはかる。
- ・授業の狙い、目標をよりはっきりさせて授業に取り組みせるようにする。
 - ・発表や説明、質問する機会があるという項目が低い。多様なテーマについて自分の考えを書くことは出来ているので、発表する場面をもっと与えたい。
 - ・授業を通して、教科の力が付いて成長したと実感出来るという項目が少し低いと感じる。
もう少し丁寧な説明をして理解度を上げていく工夫が必要だ。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

家庭科

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	フードデザイン(2年)	23	22
	生活と福祉(3年)	6	6
	保育基礎(3年)	14	12
	フードデザイン(3年)	12	10
	計	55	50

アンケートの集計結果

	1回目
質問1	3.8
2	3.7
3	3.8
4	3.9
5	3.9
6	3.8
7	3.8
8	3.8
9	3.8
10	3.8
計	3.8

質問11 自由記述欄

〈フードデザイン〉

・暑いときは別の教室でやりたい。

〈生活と福祉〉

・楽しいです。

〈フードデザイン 3年〉

・検定頑張ります。

・授業楽しいです。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

他の項目と比べて低かったものが、「生活と福祉」では「授業を通して、教科の力がついたという実感」、「フードデザイン」では「興味・関心を高めるよう工夫された授業」や「分かりやすい授業」などであった。
 「生活と福祉」の改善 → 教科の力がついて成長したという実感が得られるようできるだけ実技を取り入れる。
 「フードデザイン」の改善 → 教材研究がまだ浅いことがこのような結果につながっていると感じるため、教材研究を深め、デジタル教材の活用もできるだけ取り入れる。

「8. の授業の中に、発表や説明、質問する機会がある。」について、プリント等に記述すること多かったため後期の授業ではグループで製作し発表の場面を計画するなど取り組んでいきたい。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)2回目

教科名

家庭科

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	フードデザイン(2年)	23	22
	生活と福祉(3年)	6	6
	フードデザイン(3年)	12	11
	保育基礎(3年)	14	7
	計	55	46

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	2回目
質問1	3.9
2	3.8
3	3.8
4	3.8
5	3.8
6	3.8
7	3.8
8	3.8
9	3.8
10	3.8
計	3.8

〈フードデザイン〉

- ・特になし

〈生活と福祉〉

- ・実習が楽しかった。

〈フードデザイン〉3年

- ・調理実習や文化祭に向けた作品作りが楽しかった。
- ・今年に入って家で料理の手伝いをすることが増えました。
楽しい調理実習をしてくださりありがとうございます！
- ・楽しく調理実習ができました！

〈保育基礎〉3年

- ・壁面構成が楽しかった。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

〈フードデザイン2年〉

全項目で上昇しており(前回比)、力がついたと感じている生徒も多く、ほっとしている。実習の場面でも、助言に対して「そうやればいいんですね」という言動が返ってくるが増え、教材研究の大切さをしみじみと感じている。

〈生活と福祉〉

前回の授業評価で注目していた項目「教科の力がついて成長したと実感している」については、今回変わらない結果となった。全体的に前回よりも下降している項目も多かった。記述の欄に記載のあった「実習が楽しかった」も考慮すると、実習を伴う内容の取り扱いが後期は前期よりも少なく、授業評価に反映した可能性がある」と分析する。実技や演習を極力取り入れた授業を検討していきたい。

〈フードデザイン3年〉

調理実習については、実習の手順等がスムーズになり調理の技術の向上が感じられた。学校祭の展示については、テーブルコーディネート実習を成果を発表することができた。

〈保育基礎3年〉

実習を取り入れ授業を進めた。グループ活動では、お互いアイディアを出しながら作業を進めていた。「8. 授業の中に、発表や説明、質問する機会がある。」については、実習のときの質問に答えたり作品の発表をしていることで機会をもうけているが、今後も工夫をしていきたい。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

芸術

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	器楽演奏法	4	4
	音楽 I y	24	24
	書道 I y	6	6
	2年生活の書	2	2
	デザイン基礎	14	14
	造形表現	20	19
	計	70	69

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.8
2	3.8
3	3.8
4	3.8
5	3.8
6	3.8
7	3.8
8	3.8
9	3.8
10	3.9
計	3.8

頭と体使うのが楽しい。
ものづくりがたのしい。
制作に時間はかかるけどやりがいがあって楽しいです。
音楽とてもたのしいです。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

- ・デザインも造形も提出された作品は(インターネットで情報検索、参考にしてはいるものの)様々な発想で個性が表現されている。
- ・デザインよりも造形の満足度が高いのは「ものづくり」というからだ全体を使って表現することの楽しさを感じてくれていることがある。今後も「ものづくり」の楽しみに触れるような課題、展開を進めたい。
- ・「書く」ことから離れがちな生徒の興味・関心を引き出せるよう改善してゆきたい。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)2回目

教科名

芸術

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	音楽 I	13	9
	ソルフェージュ	2	2
	美術 2	10	10
	デザイン基礎	12	11
		37	32

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	2回目
質問1	4
2	4
3	4
4	4
5	4
6	4
7	3.8
8	4
9	4
10	4
計	4

- ・楽しくて分かりやすい
- ・完成させることができた

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

- ・ 自由記述はほとんど見られなかったが、自分の授業への取組も含め授業の満足度は高いものとする。授業への取組状況からも表現や製作することに納得、満足している様子が見えてくる。
- ・ 意欲や技能、芸術への関心意欲が生徒により差が大きくなっているように見える。個々の生徒に対応できる課題の検討や授業展開について研究を進め、芸術を愛好することにつなげたい。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

農業

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	3a作物	14	13
	2a作物	15	15
	2a農業機械	15	15
	1a農業と環境	16	15
	3a野菜	14	13
	3a総合実習	14	12
	計	88	83

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.8
2	3.8
3	3.8
4	3.9
5	3.9
6	3.8
7	3.6
8	3.5
9	3.8
10	3.9
計	3.7

- ・実際の機械を使った授業が実践的で面白い、実際のメンテナンスが面白かった。
- ・座学や実習以外に企業と連携して行える授業が面白いです。
- ・外部連携では由利本荘地域以外の農業も知りたい。
- ・様々なAI技術を活用した最新型の発展した農業を見てみたい。
- ・外部企業に行く授業もとても勉強になる。話を聞くだけでも印象に残るのでとても良い。
- ・色々な外部の講師の話が聞けて楽しいし、色々と考えさせられる事業で凄く為になる。
- ・色々な外部と連携をして、西目高校を発信できているので良いと思う。
- ・AIの田植え機に乗り、実際に作業することができたのが嬉しかった。最新技術に触れる体験が勉強になります。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

農業系列の生徒は、学校で学んだこと(座学・実習)以外に、実際の最先端の農業の現状を知りたいと考えていることが理解できる。そのため、外部連携や社会人講師の授業を楽しみにしている。就農意識はまだ低いですが、授業の展開によって就農意識を高められると感じる生徒達である。それに向けた授業を展開していきたい。

授業中に生徒を当てる機会はあったが、生徒自身が自身の考えを発表する機会が少なかったと考えられる。また、アンケート実施前までの時点で生徒が授業中に特定のテーマについてじっくりと考える時間などの設けることができていなかった点が今後の課題であると考えられる。

実施している单元等にあわせて何か一つテーマを設定して生徒がじっくりと考え、相互に発表し合う機会を設けるようにしたい。□

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)2回目

教科名

農業

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	1a農業と環境	16	16
	3a作物	13	13
	3a畜産	13	13
	3a草花	13	13
	3a野菜	13	10
	2a野菜	15	8
	計	83	73

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	2回目
質問1	3.8
2	3.8
3	3.8
4	3.8
5	3.8
6	3.8
7	3.7
8	3.7
9	3.7
10	3.7
計	3.8

- ・サツマイモ掘りは大変でしたが、試食会もありやり甲斐を感じた。
- ・ニワトリの解体で命のありがたみを知れて良かった。
- ・外部への研修への参加がとても勉強になった。
- ・自分たちで栽培した米やサツマイモの試食会が最高でした。
来年もやって欲しい
- ・林業体験により将来について考えることができました。
- ・様々な外部との関わりがとても勉強になり、実践的であった。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

全体的に農業系列の生徒は、「しっかりと農業に興味を持っている」と感じる。特に「座学」「実習」を問わず、実践的な授業に対する興味が強い。ただし、座学を苦手とする生徒も少なからず居る事は否めない。
 今後は、実践的な興味関心を座学の領域にまで及ばず発展的な授業展開が課題である。特に反応が大きかったのは、外部連携事業により先進農業への意識や「就農」に関する意識が高まったのは授業の大きな成果だと言える。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

工業

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	測量	17	17
	構造設計1	13	13
	測量	13	13
	社会基盤工学	13	13
	計	56	56

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.9
2	3.8
3	3.5
4	3.7
5	3.6
6	3.5
7	3.6
8	3.6
9	3.6
10	3.6
計	3.6

このままの授業を継続して欲しい。
授業中の指示がわかりやすかった。
メリハリがあって良かった。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)2回目

教科名

工業

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	測量	17	17
	構造設計 1	13	13
	測量	13	12
	社会基盤工学	13	13
	計	56	55

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	2回目
質問1	3.9
2	3.9
3	3.6
4	3.8
5	3.7
6	3.6
7	3.9
8	3.8
9	3.7
10	3.6
計	3.75

他の先生が多く授業に参観して緊張したがよく理解できた。 (研究授業)
授業中の指示がわかりやすかった。 メリハリがあって良かった。 いつもありがとうございます。 この一年でこれまで以上に専門科目が面白くなった。 このままの授業を継続して欲しい。

授業評価の結果から見えてきた課題と改善方法について

可能な限りICTを活用し、興味・関心を高めながら理解を深めることができた。
設問8「授業の中に、発表や説明、質問する機会がある」は、1回目のアンケートに比べ、ポイントがアップしていた。今年度の研究課題でもある「自ら学ぶ意欲を高め、自らの考えをもとに意見を明確に述べる力を身に付けさせる授業の実践」を意識した授業実践の成果があらわれているものと思われる。来年度以降も継続していきたい。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

商業

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	2 e ビジネス・マネジメント	15	15
	3 e マーケティング	7	7
	1 e ビジネス基礎	19	11
	3 e 実践	7	7
	3 e ソフトウェア活用	7	7
	2 C 1 情報処理	18	17
	計	73	64

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.7
2	3.7
3	3.6
4	3.6
5	3.6
6	3.5
7	3.5
8	3.4
9	3.6
10	3.6
計	3.6

マーケティング: BUSYBEEの活動に活かせる。
 ビジネス・マネジメント: 起業体験プログラムの活動に活かせる。
 簿記: 始めの頃は理解できたが、だんだん難しくなってきた。
 総合実践: やさしく教えてくれる ビジネスさいこう。
 情報処理: パソコンの授業は楽しいです。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

難しい検定試験に挑戦する意義を伝える努力と、放課後の学習時間の確保に対するアドバイスが必要。

自分の意見をまとめ、発表する機会を増やす。

BusyBeeの活動や起業体験プログラムへの参加に関連する科目は、どの単元をどのように学ぶと効果的か、しっかり分析した上で授業を展開する。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)2回目

教科名

商業

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	2 e ビジネス・マネジメント	15	15
	3 e マーケティング	7	7
	1 e 2 e ビジネス基礎	34	22
	原価計算	10	10
	3 e ソフトウェア活用	7	7
	2 A 情報処理	12	12
	計	85	73

アンケートの集計結果

質問11 自由記述欄

	1回目
質問1	3.9
2	3.8
3	3.7
4	3.7
5	3.7
6	3.6
7	3.4
8	3.6
9	3.7
10	3.8
計	3.7

マーケティング: BUSYBEEの活動に活かせる
ビジネス・マネジメント: 起業体験プログラムの振り返りができた
ビジネス基礎: わかりやすい授業です
情報処理: 検定に合格し自信がついた

授業評価の結果から見えてきた課題と改善方法について

ほとんどの項目で1回目より評価が上がっているが、項目7が下がっているため、自分の考えをまとめ意見を発表する時間を確保することを意識する。

冬休み明けの各種検定の合格率を上げるため、冬休み中の検定対策のあり方について工夫が必要。

BusyBeeの活動や起業体験プログラムに関連する科目は、理論と実践を往還しながら学びを深め、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指す。

令和7年度 授業評価の分析・報告(教科まとめ)1回目

教科名

情報

授業評価を実施した科目(講座)

	科目名(講座名)	在籍	回答数
	情報 I	31	29
	計	31	29

アンケートの集計結果

	1回目
質問1	3.9
2	3.8
3	3.7
4	3.7
5	3.7
6	3.5
7	3.4
8	3.4
9	3.6
10	3.8
計	3.7

質問11 自由記述欄

- ・コンピュータの授業は楽しい。
- ・もっと速く打てるように頑張ります。
- ・テストの点数を上げてください。

授業評価の結果から見てきた課題と改善方法について

前期は実技の授業なので、質問7・8の評価が低くなる。生徒が質問する時間を意識してもらっていきたい。